

第1回北陸圏広域地方計画協議会準備会議事概要

1. 日時

平成19年1月22日（月）13:30～15:30

2. 場所

富山国際会議場

3. 出席者

別紙のとおり

4. 議事（概要）

（1）開会

（2）挨拶

- ・渡邊国土計画局長
- ・須野原北陸地方整備局長

（3）議題①北陸圏広域地方計画協議会準備会（仮称）について

- ・事務局から資料1について説明
- ・準備会の設置について了承された。
- ・会長として、新木北陸経済連合会会長が選出された。
- ・会長代理として、深山石川県商工会議所連合会会頭が指名された。

（4）議題②国土形成計画について

- ・国土交通省国土計画局から資料2について説明

（5）議題③北陸圏広域地方計画の策定について

- ・事務局から資料3について説明

（6）議題④意見交換

- ・出席者による意見交換

<主な発言内容>

- ・地方分権の流れの中でも著しい地域格差の是正には国が主導的な役割を果たすべきである
- ・地理的優位性を活かした東アジアとの交流・連携による新たな飛躍を目指す
- ・ものづくりの伝統を行かした産業集積が必要である
- ・国際観光・広域観光の推進が必要である
- ・賑わいあふれるまちづくりが必要である
- ・農業・農村の振興等が必要である
- ・日本海国土軸・環日本海交流圏の形成が必要である
- ・大都市圏と地方圏との格差の是正を国の視点として大事にして欲しい
- ・東アジアとの交流基盤として港湾、空港の整備が必要である
- ・活力ある地域産業の振興が必要である産学官間又は産業間の連携による企業立地を促進して欲しい
- ・能登半島は過疎化が進行しているが、この地域は「食」が多様かつ豊富である 「食」資源を産業化につなげて欲しい
- ・交流人口の拡大のために広域的な交流基盤の整備が必要である
- ・東京に過度に依存しない地域づくりが必要である 大都市集中投資には反対である
- ・優位性・特性・パワーを活かしながら、自立性や求心力の確保、新しい価値観にあったライフスタイルの創造につながる将来戦略づくりが必要である
- ・新幹線や高速道路など高速交通ネットワークの整備は国が責任を持って行うことを国として明記すべきである そうしないと東アジア諸国との競争には勝てない
- ・東アジアとの日帰り圏だけではなく、まず地方と東京の日帰り圏を充実すべきである

- ・東京の視点で地方を考えないようにしてほしい 地方と東京は互いに補完し合う関係であるべき
- ・地方の人材育成などにより中央が成り立っていることを忘れないでほしい
- ・海岸保全・海洋汚染・黄砂などの対策をしっかりとほしい
- ・流木も大きな課題であり、森林や河川など流域全体としての対策をしっかりとほしい
- ・人口減少高齢化により放置空き家が増加することが想定され、手入れしようにも私権との調整が困難になるのではないか
- ・北陸のターゲットは太平洋側とアジアである
- ・近年、近畿圏とのつながりが弱くなっていることが大きな課題である
- ・漂着ゴミ問題が顕在化している
- ・人口流出の背景をしっかりと探る必要がある
- ・強みは学術・文化を背景としたものづくりであり、さらに強化する必要がある
- ・日本海国土軸の形成として交通基盤が不十分である
- ・地方港湾の整備も必要である
- ・人口減少高齢化により中山間地の人口も減少し、人間と獣の生活境界がなくなり、住みたくても住めなくなるおそれがある
- ・地球温暖化・グローバル化により害虫の影響が懸念される
- ・富山県は新潟県、長野県、岐阜県、石川県と接するが、唯一、長野県とのアクセス道路がない
- ・農地の荒廃、林地の荒廃が懸念されるが、後継者不足、土地所有者不明などにより保全等が難しくなる
- ・国産材を使うために木造の小学校を作りたいが制度上難しい
- ・豊富な自然があり、観光・定住環境が整っているので、あとは新幹線などの高速交通体系が整いさえすれば、地域の活性化や東京にある企業の支店の進出なども十分見込める

(7) 議題⑤今後の進め方について

- ・事務局から資料4、5、6について説明
- ・幹事会、専門分科会の設置について了承された。

(8) 議題⑥その他

- ・事務局から国土形成計画シンポジウムについて説明

(9) 閉会

- ・有野北陸信越運輸局長

(速報のため、事後修正の可能性があります。)